社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター

平成 30 年度 事業報告

目　次

Ⅰ　事業報告概要 1
１．社会福祉を取り巻く状況 1
２．基本方針に対する振り返り 1
Ⅱ　事業計画の重点に対する取り組みの到達点 2
Ａ．障害者支援施設「洛西寮」 2
Ｂ．三療事業部 3
Ⅲ　各部門別報告 6
Ａ．障害者支援施設「洛西寮」 6
【各事業】 6
１．生活介護「ちくりん」 6
２．就労継続支援Ｂ型「らくさい作業所」 7
３．施設入所支援（夜間支援） 9
【各サービス内容】 9
１．健康管理 9
２．食生活と栄養管理 11
３．歩行訓練 12
４．余暇活動支援（共通の活動） 13
５．買い物支援サービス 14
６．ボランティア支援サービス 14
Ｂ．三療事業部 15
１．盲人ホーム　美鈴 15
２．就労継続支援Ａ型「らくさい治療院」 16
Ｃ．法人 18
１．事務局 18
２．点字出版施設「紫野点字社」 20
３．京都府失明者巡回生活指導員派遣事業 21
４．指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所　スマイルサポート」 23
５．主催行事 24
６．共催事業 27

Ⅰ　事業報告概要

１．社会福祉を取り巻く状況

働き続けられる事業所を目指す本法人にとって、昨年度は最も忌々しい事態が生じた年度となった。

8 月 17 日に一斉に報道公開されたニュースは、こぞって《障害者雇用：中央省庁、水増しか 42 年間　政府が調査、…』と衝撃的に報じた。

「障害者雇用促進法では企業や公的機関に一定割合の障害者を雇うよう義務付けている。国や自治体の法定雇用率は現在、2.5%、民間企業は 2. 2%。厚労省は 17 年 12 月に国の障害者雇用の状況について、同年 6 月時点で 7593 人、雇用率は 2.5%と発表。中央省庁は個人情報保護委員会を除き、法定雇用率（当時は 2. 3%）を達成したとしている。」（同日付「毎日新聞」引用）

本法人においては、就労支援 a 型、B 型及び、生活介護（成算活動型）並びに盲人ホームを運営している。

今年度の特長は、生活介護、施設入所支援利用者の高齢化による盲養護老人ホームへの移動（年間 4 名）が集中したことが特筆すべきことであった。このことで、入所施設支援と併せて、施設利用率が減少し、報酬不足による財政運営面の危機的状況が表面化したことであった。

福祉制度の面では、懸案となっている、施設入所者が日常生活用具の給付や移動支援のサービスを受けられない問題について、今年も京都市に要望したが、進展は見られなかった。

2017 年度から法人内に設置されている「ビジョン検討委員会」は、2 年目を迎え業務改善を中心に議論を進めた。また、12 月 17 日には、財政問題に特化した「第 1 回財政再建推進委員会」を設置し、2019 年度予算に対する具体的手立ての検討を開始した。年度末から年度当初にかけては、更にそれらの課題解決の執行組織として、野村理事長をトップにした「財政強化対策本部」を立ちあげ、最充填課題への取り組みを最優先した。

２．基本方針に対する振り返り

本年度の事業計画立案にあたっては、以下の三つの視点を踏まえて推進した。

Ａ．年間の部署の目指すべき目標（スローガン）を明確化し、事業目標、達成課題などを明らかにして行く。

以前に比べて事業計画の目標をより明確にしたことから、各事業所ごとに年間の達成目標（スローガン）の達成状況が把握しやすかった。他部署から見ても、部署内部の課題が浮かび上がり、相互の共通認識が得られやすくなった。

Ｂ．事業計画の推進にあたっては、ロードマップに基づいて、定期的な振り返りと年度末評価（事業報告の指標）として行く。

定期的な評価を掲げたが、日常的な業務に追われ、実践することはできなかった。

しかし、ビジョン検討委員会では、それぞれの部署の抱える問題や改善課題を明確にした議論が深まり、業務改善や財政再建の課題としてクローズアップされた点では、大きな成果につながった。

Ｃ．作業別ステップアップ（到達度評価表）の導入

① 利用者、支援員共通の作業段階別評価の試み…（作業所、ちくりんで加筆）
② 利用者の作業目標の明確化と達成課台の客観化…（作業所で加筆）
③ 作業支援の数値化と達成課題に対する研修課題の標準化…（作業所で加筆）
④ 円滑な後継者育成計画を支える標準的なプログラムの作成…（点字、作業所で加筆）

Ⅱ　事業計画の重点に対する取り組みの到達点

Ａ．障害者支援施設「洛西寮」

【概要】

①定員確保と財政課題

洛西寮の利用者は、この 1 年間で施設利用者総数で－3、通所者数は維持できたものの、施設入所支援が－3 であった。養護老人ホームへの移行が年間 4 名を数え、ちくりんと施設入所支援の部分に集中したことから、支援区分 4 以上の流出で財政的にも大きな打撃となった。それに対し、11 月には、近畿盲学校進路指導部会（神戸市）に入所勧奨の資料を送付。また、12 月には、岡山を含む近畿地区視覚障害者団体事務局に入所勧奨の働きかけを行った。年度末には、数件の入所希望者からの問い合わせがあり、2 件の確保見通しを得た。しかし、問い合わせの中には、洛西寮の支援の力量を越えた支援区分 5 レベルの利用者もあり、制度と施設の力量と野谷間で入所確保に大きな壁が立ちはだかっている。

②安全・安心な施設環境

懸案となっている、入所者の夜間、休日の日中支援については、新たな進展は見られなかった。夜間、早朝における施設利用者の転落事故や負傷原因が不明な場合等の事例があり、引き続き、支援の「目」と注意喚起が不可欠である。しかし、日中支援から夜間支援の橋渡し業務の拡充をはじめ、居室支援、重度者に対する個別支援の関わり等、これまでにない進展する動きも芽生えている。

【課題】

医療的ケアの改善：　休日日中及び夜間の利用者の不慮の事故や病状の悪化など、夜勤、日直支援員と看護師との連携で賢明な対応が行われた。人出のある日中とは違って、夜間、早朝の場合、夜勤支援員のみの判断に委ねられる場合が多く、その対応の大半が看護師に集中し、日ごろの通院介助と併せて 1 看護師に大きな負担を強いる結果を招いている。また、朝のバイタルチェックにおけるチームワーク支援同様、リスク管理マニュアルの履行と人員配置の平等なルール化が不可欠となっている。

【成果】

① 眼科検診の取り組み：4 月 24 日、初の所内眼科健診が行われた。（中地眼科医、健診者数 36 名）
② 主たる疾患に対する基本検診の導入
③ ヒヤリハットで大事故から芽を摘み取る意識改革の具体化（館内の突出した壁面角に衝突保護シートの装着を行った。階段部分の点字ブロック表示の欠損箇所への手立てが課題。

【課題】

① 通院介助支援の業務分担についての検討→看護師、支援員のチームワーク支援が目標

② 送迎体制の検討→地域で生き残るための事業所の「強味」開拓

③ 家族との協同→家族に依拠した健康管理

Ｂ．三療事業部

【概要】

実績の維持・発展とさらなる前進への挑戦

【成果】

京マ会への結集と法人三療事業部の使命の発揮

【課題】

京都における研修機関としての役割の担い手

【実績】

①あはき違憲訴訟

第 9 回～第 12 回まで計 4 回、大阪地裁傍聴に延べ 8 名を派遣した。

②あはき関係連絡会に委員派遣（2 回）

（１）盲人ホーム美鈴

【概要】

改築後 13 年目、前年度 6 名、年度当初 2 名受け入れ、修了 1 名、年度末に 2 名を受け入れ、7 名体制で次年度を迎える。(男女比 5 対 2)。

（２）らくさい治療院

【概要】

前年度 10 名、年度当初 2 名受け入れ、12 月に 1 名就職で退所、年度末に 1 名を面接採用とし、12 名体制で次年度を迎える。

Ｃ．法人

１．事務局

【概要】

洛西寮築 34 年目を迎え、漏水、非常灯をはじめ、老朽化した建物設備の保全に追われた 1 年となった。

【成果】

定款、就業規則改定・整備、勤怠システムの本格導入

【課題】

財政再建推進委員会の立ちあげと中核的役割

２．点字出版施設「紫野点字社」

【概要】

① 点字読者の減少とニーズの伸び悩みは、改善しなかった。前年比…%の売上額が示す通り、少部数、多種類、絵文字化などによる文字数の減少で入力・製版・印刷費の単価減が続いている。

② 点字担当職員の 8 月末退職、10 月からの新任職員採用、1 月、ベテラン職員の病気療養など、予期せぬ事態に見舞われ、《京都市民新聞業政区版』の一部を外注委託せざるを得ない事態となった。

【課題】

① 点字に関する後継者育成のとん挫に加え、新任職員の採用と目まぐるしい動きに翻弄され、本来の育成計画の遂行ができなかった。

② 今後の法人における点字製作受注及び作業所における印刷、発送業務の比率等、紫野点字社の基本構想作りが早急な課題。

３．京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業

【概要】

① 本年度も城陽氏の南部あいセンター及び、南部サテライト（京田辺、宇治、長岡京市）を中心に、相談活動を展開した。また、周辺部の八幡、相楽・木津川市への拡大を図ると共に、綴喜、相楽の関係町村を訪ね、利用者発掘と視覚障害啓発に力を注いだ。

② 1 月末、7 年間担当した相談員と洛西寮内のちくりんの生活支援員との人事移動を内示すると共に、相法の引き継ぎを経て、次年度からの円滑な業務遂行に着手した。

【成果】

①この間の計課：　2016 年度南部あいセンター相談員の配置、2017 年度あい丹後への配置に加え、2018 年度、福知山市が中丹における拠点場所として、福知山市総合福祉会館内の一室を提供するという英断があった。

②京都府視覚障害者協会は、2020 年度当初からの北部拠点開設を目途に、「北部拠点準備委員会」を設置した。

【課題】

① 相談員の派遣エリアは、府内南部（山城北、山城南及び乙訓並びに亀岡・南丹地域）に対し、相談員の数が常勤換算 1．6 人だけでは到底相談ニーズを充足できないのは明白である。法人の財政課題解決のためには、当初からの不採算部門の見直しの議論等が浮上していることなどから、京都府に対する厳しい予算折衝が急務となっている。

② 相談員の育成に向けた研修計画の具体化が必要である。

４．指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所『スマイルサポート』

【概要】

入所、通所による施設利用者を中心に計画相談を担った。

【課題】

① サービス等利用計画におけるアセスメント及び、モニタリングの順守
② サービス担当者会議の厳守
③ サービス等利用計画の利用者への交付及び、交付記録の整備
④ 兼任体制、不採算部門の改善

☆　当時者相談支援「ピアカウンセリング」

【概要】

5 年前からこの種の相談支援を開始してきた。原則として、希望者優先、月 2 回の割合で実施し、当時者による当時者の相談支援を貫いた。

【成果】

① ピアカンの相談報告記録を毎回メーリングリストで支援員に情報提供し、年 2 回相談支援者を交えたケース会議が開催できた。
② 相談支援の前後に担当の支援員と意見交換ができ、課題解決に大きな効果があった。

【実績】

相談会数　18 回（最多　9 回、最小　1 回）
実利用者数　23 名（延べ利用者数　44 名）

５．厨房（外部委託業者　一冨士）

【概要】

委託開始後 4 年め、栄養士の欠員期間が長期化し、人員不足の課題が克服できなかった。

【課題】

① 毎月 1 回の給食委員会を開催し、課題の抽出と改善目標を明確にした。
② 検食簿の記載内容についての吟味。
③ 財政強化の視点から見た外部委託の再検討。

Ⅲ　各部門別報告

Ａ．障害者支援施設「洛西寮」

支援計画

【概要】

会議時間の確保には課題が残るが、全体会議前に担当支援員との個別会議を行うことで、定期的に円滑な全体会議を進めることができた。

また、1 人でも多くの利用者を全体会議で報告できるよう努力し、限られた時間ではあるが、支援計画会議を全支援員で行うことを重視し、事業所を越えた共通認識の確認や、利用者一人ひとりについての現状や課題などの理解を深める場とした。

書類作成優先ではないことを意識し、より良い支援につなげられるようにも努めた。

【各事業】

１．生活介護「ちくりん」

【概要】

日中活動（生産活動・レクリエーション等）及び利用者ニーズに応じた個別支援を実施し、生活の質の向上に努めた。

【成果】

① 随時、家族とは連携の強化を図った中、5 名の利用者とその家族とは日程調整して話し合いの場を設けた。（作業重視のＢ型へ移行、老人ホーム手続きや移行、今後の方向性の確認・協力依頼を行った）

② 利用者の技術向上への支援を行い、2 名の利用者が箱の組立技術を習得した。また、らくさい作業所の作業スペースの問題に伴い、ちくりん作業場へ材料を移動したことや、利用者の座席の配置替えも行い、環境整備と作業効率向上にも努めた。

③ レクリエーションは、利用者の意見を取り入れつつ、出来るだけ皆が楽しめる様々なレクリエーションを提供した。今年度は老人ホーム移行者が多かったため、送別会も行い、別れの時間を設けた。外出企画は、作業ボランティアを中心に協力依頼を行い、安心安全の外出にもつながった。

④ 大掃除を 8 月と 12 月に実施し、いつも行わない部分を一緒に行った。利用者の衛生面の意識付けにもつながった。

【課題】

①作業支援

支援員の作業技術向上に向けての取り組み、誰もが説明できる技術指導マニュアルの検討、利用者の技術向上に向けての取り組み等

②個々の利用者に添ったより良い生活に向けての取り組み、利用者リハ的要素の検討等

③新体制での事業内容把握、支援員の基盤強化、利用者確保等

科目	内容
生産活動(箱作業)	京菓子箱：八つ橋・京の夢丸
調理実習	クレープ作り、わらび餅作り、キャベツ焼売作り
外出	散策、初詣、花見、喫茶、
創作活動	七夕飾り作り、節分お面作り
娯楽	カラオケ、ＤＶＤ鑑賞、ボーリング、ティータイム、豆まき
ちくりん行事	日帰りレクリエーション（京都市動物園）、忘年会（回転寿司）
バースデー企画	誕生日月に希望先に外出
その他	卓球バレー

② 工賃

総支給月数 合計③	就労時間 合計①	工賃支払総額 合計②	平均工賃月額 ②÷③	平均工賃時間額 ②÷①
207 月	12,537 時間	1,665,555 円	8,046 円	132.9 円

２．就労継続支援Ｂ型「らくさい作業所」

【概要】

今年度 4 月末ミシン作業支援員の退職、5 月支援員の異動があり、新メンバー5 名（非常勤含）体制でスタート。6 月には新規通所利用者 1 名、9 月生活介護「ちくりん」より 1 名移行され、登録利用者 22 名となる。

また、作業体験希望者も多く、いろいろな作業体験の受け入れを実施した。

今年度は、利用者、支援員一人一人が新しい事に「チャレンジ」することをスローガンに掲げ、失敗を恐れず挑戦する気持ちや意識を持ち取り組んできた。特に下半期においては、入学入園の製品作りや点字作業等々多忙な日々が続き、他部署職員の協力を得ながら作業に取り組んできた。

生活支援においては、休みが続く通所利用者への様子伺いの連絡、状況に応じ家族との話し合いや協力依頼等、個々の利用者に応じた支援を行い、家族や関係機関との連絡・相談を重ねる事で、より密な連携を深めた。

【成果】

① 新製品作りの取り組みとして、トートーバッグ、水筒入れ、アクリルたわし製品を作成し商品化した。又、既存の製品についてもより良い商品を目指し付加価値を高め販売を行った。

② 毎月、自主製品（ショーケース）のディスプレイによる製品紹介の更新を行い、来客者による購入に繋がった。

③ 毎年実施している入学入園の製品販売の販路開拓に努め、昨年に引き続き、卒園記念の受注や問い合わせ等が増えた。

④ 地域や関係機関の催事・保育園等の製品販売の参加を行い、利用者個々に応じ商品名や価格、販売の流れを理解できるよう販売要員としての接客対応などの働きかけを行い、社会参加への促進に努めた。
⑤ 入所利用者の居室支援及び買物支援を定期的に実施した。
⑥ 様々な作業を取り組む機会を設け、技術の向上に努めた。

【課題】
① 作業環境の改善
② 支援員の技術向上と支援スキルの強化
③ 様々な作業にも対応できる利用者の技術拡充
④ ニーズ、需要を把握し、新たな製品開発
⑤ 生活支援の時間の確保

【実績】
① 作業科目一覧

科目	内容
点字印刷	市民しんぶん、市会だより、部局情報誌、盲導犬情報等
封入発送作業	市民しんぶん拡大版、市民ニュースポスター、京都創生PRポスター等
ミシン縫製	下請：和装用袋、ひも通し、袋物、カバン紙詰め作業等 自主製品：給食袋・体操服入れ・白杖入れ・手提げ袋等
箱作業	京菓子箱：八つ橋・京の夢丸
数珠加工	数珠玉通し
黒豆茶	ティーパックの袋詰め作業

② 売上

科目	売上（円）
点字	8,064,433
自主製品	997,385
縫製下請	297,546
箱作業	658,368
数珠加工	138,700
黒豆茶	423,580
自販機	321,759
その他	41,278
合計	10,943,049

③ 工賃

総支給月数 合計③	就労時間 合計①	工賃支払総額 合計②	平均工賃月額 ②÷③	平均工賃時間額 ②÷①
249 月	21,995 時間	6,495,191 円	26,085 円	295.3 円

３．施設入所支援（夜間支援）

【概要】

夜間支援における安心・安全な寮生活を送っていただくため、随時夜勤職員の業務や遅出職員の業務の再点検を実施した。

また今年度も居室の衛生環境面を整備するため、毎週１回定期的に支援員による居室の清掃を実施した。

【成果】

① 遅出勤務体制により、利用者個々の相談、生活支援、夕食時の見守り、館内巡回強化（特に利用者の安全面の確保）により、利用者の転倒事故や利用者間のトラブル等未然に防ぐことが出来た。
② 緊急用カルテの定期的な更新を実施し、常に最新の情報を保持した。
③ 支援員連絡会にて日勤者から夜勤・遅出勤務者への申し送り等を行い、利用者個々の情報の共有化が図れた。
④ 長期休暇及び、週末の申し送り業務の周知徹底。
⑤ 休日及び夜間想定の防災訓練（火災２回、地震１回）を実施した。
⑥ 館内の巡回当番業務を明確化し、衛生管理に努めた。

【課題】

① 夜間支援における安全・安心な生活環境整備、転倒防止など危機管理対策における夜勤職員業務及び、遅出職員業務の見直しを継続検討
② 夜勤職員・日直職員との連絡会の定期化
③ 高齢化、重度化していく利用者の身体機能の維持・減退防止のため、健康維持のための訓練の実施。
④ 休日及び長期休暇の余暇活動の実施

【各サービス内容】

１．健康管理

【概要】

① 利用者個々の目標やニーズ、課題に即した支援計画の実践
② 単独通院が困難な利用者、または急病の利用者に対して、通院介助及び入院時の支援

【成果】

① 定期的に血圧・体重測定・検尿を実施、嘱託医に個々の健康相談や身体状況等を随時報告し、必要時、嘱託医の往診により早期対応が行え、医療体制が充実した。

② 訪問型体力測定を実施し、利用者の体力面についての現状把握を行った。理学療法士、作業療法士から専門的アドバイスが受けられ、相談窓口が拡充した。

③ 検診結果を受け、病院で定期的に検査を受けている利用者もあり、全体的に検診受検者は増加、健康への意識は向上している。

④ 館内の安全面を強化。壁の角にガードを設置したことで受傷者が大幅に減少した。

⑤ 医師の往診で、ほぼ全員眼科検診を受けることが出来た。

⑥ マニュアルの見直し、早期隔離によりインフルエンザ罹患者が昨年より減少した。

【課題】

① 体力向上の為の取り組み

② 年齢に伴う歯周病罹患者の増加、口腔ケアの実践

③ 身体、精神疾患の多様化・複雑化に伴う個別対応と全体業務のバランス

④ 継続した各種検診の必要性周知、受診促進

【実績】

① 利用者の健康診断等の実施状況

期日	実施内容	対象者	人数	実施者等	実施場所
毎月1回	嘱託医健診	希望者(8・2月は全員)	153	洛西寮嘱託医	洛西寮医務室
	寮内健診	全員	453	洛西寮看護師	洛西寮医務室
4月	眼科検診	全員	36	医療機関（中路医院）	洛西寮
5月	歯科健診	希望者	7	京都府歯科医師会	洛西寮医務室
6月	胃癌検診	50才以上（2年に1回）	1	京都予防医学センター	洛西支所
	大腸癌検診	40才以上	10	京都予防医学センター	洛西支所
6月	基本健診	全員	39	鳥羽健診クリニック	洛西寮
11月	乳癌検診	30才以上女性（2年に1回）	4	京都予防医学センター	洛西支所
6月　2月	耳鼻科健診	希望者	44	医療機関	豊田医院
通年	子宮癌検診	20才以上女性（2年に1回）	4	医療機関	洛西NT病院・その他
通年	前立腺癌検診	50歳以上男性（2年に1回）	3	医療機関	洛西NT病院・その他

② 通院件数

年度	通院件数
25 年度	690
26 年度	596（うち介助 413）
27 年度	479（うち介助 390）
28 年度	483（うち介助 375）
29 年度	488（うち介助 335）
30 年度	434（うち介助 342）

２．食生活と栄養管理

【概要】

利用者の栄養状態の維持や改善、食生活の質の向上を図るため、定期的に給食委員会を開催し、献立や調理方法を工夫するとともに、栄養ケア・マネジメント会議等を通じて、多職種と連携しながら個々の特性に配慮した支援と、食事の提供を行った。

【成果】

① 食中毒や感染症に罹患する利用者がなく、安定した食事提供ができた。
② 誕生月のリクエストメニューや、選択メニュー、鍋料理は今後も継続をと多数意見があった。
③ ケア・マネジメントでは、入所者の健康・栄養状態について、多職種で各立場から検討を行った。（スクリーニング結果の推移について、下記まとめ）
④ 医師の指示に従った療養食の提供と、健診結果に基づく栄養指導を実施した。
⑤ 入所者の年齢構成に基づき、「食事摂取基準」の見直しを行った。
⑥ 利用者間、職員との交流の場として、毎週水曜日に開催している「喫茶」も 2 年目となり、憩いの場として定着してきている。今後も現行で継続してほしい意見が 94%あった。

【実績】

【栄養ケア・マネジメント】（平成 30 年 3 月 31 日現在）

栄養ケア・マネジメントでは、ご利用者の健康の保持・増進のために最適な栄養ケアを提供する事を目標としてスクリーニングを行いリスク状態を判定し、病気の症状が現れる前に栄養に関する問題を発見する事ができるよう、3 ヵ月に 1 回栄養スクリーニングを実施している。

当施設は視覚障害者に特化した施設で、働く事業所であることから、基本生活は自立できており、リスク判定 4 項目（①肥満度②体重変化率③血清アルブミン値④食事摂取量）のうち、低栄養に該当する利用者はなく、主に①肥満度、②体重変化率でリスク判定に該当する利用者が多い傾向がある。定期的にスクリーニングを行い、食事摂取量や食事以外の飲食状況（外食、嗜好品（アルコール含む））、健康状態を把握し、いつまでも健康で働き続けられるよう、今後も多職種（支援員、看護師、管理栄養士）で連携し、支援について検討を行っていく必要がある。

【栄養スクリーニング結果の推移】

平成 30 年度入所 27 名（生活介護ちくりん 15 名・Ｂ型らくさい作業所 12 人）

【リスク該当人数】①肥満度(肥満・やせ)②体重変化率（増加・減少）③血清アルブミン値④食事摂取量

	高リスク	中リスク	リスク該当人数(入所 27 名中)
4 月	①1 人、②1 人	①5 人、②7 人	12 人(44%)
5 月	①1 人	①5 人、②10 人	13 人(48%)
6 月	①1 人	①5 人、②10 人	14 人(51%)
7 月	①1 人	①6 人、②9 人	12 人(44%)
8 月	①1 人	①4 人、②13 人	16 人(59%)
9 月	①1 人	①6 人、②12 人	15 人(55%)
10 月	①1 人、②1 人	①5 人、②13 人	16 人(59%)
11 月	①1 人、②1 人	①7 人、②12 人	17 人(63%)
12 月	①1 人、②3 人	①8 人、②15 人	23 人(85%)
1 月	①1 人、②1 人	①6 人、②14 人	18 人(66%)
2 月	①1 人、②1 人	①6 人、②12 人	17 人(63%)
3 月	①1 人、②3 人	①6 人、②9 人	15 人(55%)

（長期帰省後は、体重変化率のリスク該当者が増加する傾向あり）

【課題】

① 給食委託会社の栄養士不在期間が 4 ヵ月あったため、細かな対応が不十分な時期があった。昨年よりも行事食の回数が減った。

② 肥満者や、体重増加率・中～高リスク者への支援について、運動等の具体的な取り組み実施が課題。安全面から視覚障害者が自主的に取り組む事は難しく、職員の時間確保も課題。

③ 毎週水曜日の「喫茶」は好評を得ているが、来年度は回数を減らし、共通活動として支援員と看護師による「運動」に関する取り組みを開始する予定。

３．歩行訓練

【概要】

利用者一人一人の要望に応じ、個々のニーズ・歩行技術に併せ実施した。

【内 容】

① 新しい利用者等に対する施設館内でのファミリアリゼーション（環境理解）

② 通所利用者に対する単独通所のための歩行訓練

③ 入所利用者に対する単独歩行での帰省のための歩行訓練

④ 利用者に対する白杖基本操作獲得・道路などの環境構造理解・状況把握

⑤ 利用者に対する寮周辺店舗や歯科までのファミリアリゼーション（環境理解）

⑥ 利用者に対するＱＯＬ向上を実現する社会参加のための歩行訓練

⑦ 利用者に対する店舗などでの実践を想定した社会適応訓練

【成果】

① 利用者に対して単独歩行による通所を想定した歩行訓練を行い、通所が可能になり、施設利用に繋がっている。

② 入所利用者に対して実家への単独帰省をするための歩行訓練を行い、家族や本人への心理的支援にもつながっている。
③ 新しい利用者等に対して洛西寮館内のオリエンテーションを行い、施設利用をスムーズにしている。
④ 洛西寮から近隣の商店や歯科医院までの歩行訓練により日常生活の行動範囲を拡大し、日常生活の自立を支援している。
⑤ 利用者がより広範囲な社会参加を可能にするための歩行訓練により、ＱＯＬ向上による安定した生活のための支援を提供している。
⑥ 実習生や新人研修生に対して、視覚障害の理解と手引き歩行についての講習を行った他、ボランティアに対する講習で、視覚障害に対する理解を深めている。

【課題】
① 利用者個々のニーズに対する十分な訓練時間の確保ができていない。

【実績】（延べ人数）
① 自宅から洛西寮への通所の訓練　1 名
② 洛西寮館内のファミリアリゼーション　2 名
③ 洛西寮周辺の医療機関、店舗などへの外出の訓練　3 名

４．余暇活動支援（共通の活動）

【概要】
らくさい作業所、ちくりんとの共通活動を通して事業所間の交流を深め、利用者一人一人が余暇活動を楽しみ、リフレッシュできる環境作りに努めた。
第 2、第 4 水曜日を共通活動日とし、第 1、第 2、第 3 金曜日は、ボランティアによる選択科目（点字）のサービス提供を行った。また、職員による選択科目「社会」（自由参加で再開）のサービス提供を行った。

【成果】
① 毎月第 2 水曜日に外部講師による「ヨガ」を取り入れ、呼吸、姿勢、瞑想を組み合わせた、心身の緊張をほぐし、心の安定とやすらぎを得る良い時間となり支援員と一緒に行なった。
② 音楽（合唱指導）を第 4 水曜日に実施し、リクエスト曲や季節に応じた曲の指導を受け、音楽を楽しみ心身共にリフレシュできた。今年度も洛西寮まつり・クリスマス会の行事には、全員参加で合唱発表を行った。
③ 第 1 水曜日は、選択科目「社会」を企画し実施した。
④ 毎週水曜日実施の「喫茶サービス」事業は、利用者の参加率も高く、事業所間の利用者の交流や職員との交流が図れた。
⑤ 長期休暇、土日祝の日直職員による日中活動の提供を行った。特に茶話会が好評であった。

【課題】
① 視覚障害者団体、地域等の行事・催し等の参加への働きかけと引率者の確保
② 休日及び長期休暇等の余暇活動の提供
③ 参加率の高い企画等の検討

【実績】
① 日中活動支援
内容＝地域行事・茶話会・対面朗読・招待催し

② 選択科目

科目	利用者人数	内容
点字	5 名	各習熟度に応じた点字の読み書き練習
社会	8～10 名	暦と地理と体について（自由参加）

５．買い物支援サービス

【概要】
① 金銭管理が難しく支援が必要な利用者には特に、買い物の計算を一緒に細かく行いながら、購入し、予算内で買い物することの意識付けを行った。
② 利用者のニーズに出来るだけ添えるよう支援した。自分の好きな嗜好品を買うことを楽しみにしている利用者も増えた。
③ 支援員が一緒に同行し、目的とする品物を利用者個々に応じ、わかりやすく説明をすることで安心して買物ができた。

【課題】
① 申込者が増えたことで、手引き者や車の確保。
② 個々の思いに添えば添う程、時間と手引き者が必要になる。

【実績】
① 年間延人数＝近所：313 人、桂川イオン：34 人
② ちくりんでは、毎週木曜日を買物支援日と設定

６．ボランティア支援サービス

【概要】
今年度は、総勢　38 名の登録者があり、利用者個々の課題やニーズに応じた日常生活上の支援の充実を図るため、様々な分野で協力を得た。

【成果】

① 洛西寮まつり等の行事における要員ボランティアの確保

② 春の行事、法人研修旅行、休日の個別の外出支援（買い物、映画鑑賞、散策等）、作業所別の余暇活動支援における手引きの確保

③ 選択科目における点字指導

④ 利用者とボランティアとの交流を深める自治会行事の実施（七夕会、クリスマス会）

⑤ 朗読ボランティアによる、毎週月曜日の「こんな話あんな話」の情報提供、水曜日の「読みかきサービス」および毎週土曜日の対面朗読

⑥ 作業ボランティアの日常化（下請箱作業と縫製作業）

【課題】

① ボランティア登録者の高齢化と利用者の高齢化で、かなり配慮が必要なボランティア確保となり手配に困難を要する。

② 休日の外出ボランティア依頼は、5 名ほどのかぎられたボランティアにより、その一部の方への負担増大。入所施設利用者の移動支援サービスの利用が可能となるよう強く要望継続必要。

③ボランティアの費用負担を一切なくすための対策。

【実績】

① ボランティア登録者数 38 名（平成 30 年 3 月 31 日現在）

② ボランティア活動実績

活動内容	延人数
作業	189
朗読	547
選択科目	80
手引き	99
行事	127
合計	1042

※朗読のうち　読み書きサービス実績

サービス利用者合計	寮生	外部	ボランティア
164	118	46	90

B．三療事業部

1．盲人ホーム　美鈴

【概要】

30 年度利用者動向は、新規利用者 2 名（男性 2 名）、修了利用者 1 名であり、女性 1 名、男性 5 名、合計 6 名　美鈴開設以来初、男性利用者数が女性利用者数を上回った。

今年度も安定した事業運営のもと大過なく推進できた。

【成果】

① 患者数の推移

・患者数 4,691 名(前年比 91%)

・ 鍼の患者数は 900 名　前年度比 60%　総患者数に対し 19%

・「京都市はり・きゅう・マッサージ施術補助券」利用者増。延べ利用人数 388 名
（昨年度 393 名）

② 利用者の技術向上のための取り組み

・利用者間や指導員による施術スキルチェックをしてスキルアップに努めた。

・施術した患者の施術報告を作成して、利用者と指導員で施術方法や手技などを話し合い学習した。

・学習会で、各々興味のある施術方法等を報告し合い理解を深め、患者の治療効果を高めるよう努力した。

・コミュニケーション研修、10 回実施。

③ 京都府立盲学校生徒 1 名の実習を受け入れ実施した

④ 洛西寮まつりにて無料奉仕マッサージを行い好評を得た

⑤ 秋の船岡スタンダードにて有料マッサージに参加した

【課題】

① 前年度 3%の患者数増に努める

② 開業サポート強化

③ 就労サポート強化（関係機関の活用）

④ ソーシャルスキルアップ

【実績】

① 年間患者数＝4,691 名（前年比 91%）、月平均 391 名

② 年間売上＝15,719,200 円（前年比 92%）

２．就労継続支援Ａ型「らくさい治療院」

【概要】

事業計画のスローガンで上げた開所 5 周年記念企画の、① 5 周年記念施設内研修会の開催、② 5 周年記念日帰り旅行の開催、③ 5 周年記念三療祭りの開催、④ ステップアップマスターズの本格導入、⑤ 就労移行支援のためのジョブコーチ体勢の検討、これらほとんど実現できたが、②の日帰り旅行は、Ａ型のコンプライアンスにレクが規定されていないため、今回は見送ることとした。

次に、昨年の患者数・売り上げを超えることが出来た。

その大きな要員として、スタッフのスキルアップが促進されていることが成果・結果とつながっている。（実績参照）

そして、そのスキルアップへつなげていくために、日々のコミュニケーションやニーズアセスメントがいかに重要かを痛感した年度となった。

一方で、三療を仕事とするビジョン、コンディションの調整、自己理解など、これらがスキルの再現性と密接に関係していることが解ってきた。

最後に、視覚障害三療の最大のニーズが技術であることを、らくさい治療院が実績として証明し発信していけるよう邁進していくこととする。

【成果】

① 利用者とのコミュニケーション作り

どんな形であっても、最後に褒めるで終わることで、モチベーションアップとスキルアップにつながった。

②夢や叶えたい事への関わり

必ず叶えるが重要ではなく、夢や叶えたいことを話す事でモチベーションにつながり、スキルアップへとつながった。

③最大快圧痛点アプローチの意識化

施術の流れがあることが前提だが、最大圧痛点のアプローチの意識化が促進されたことで、患者さまの満足土が上がり患者数、売り上げとつながった。

④はりスキルアップのトレーニング強化

まず第一段階として、はりのスキルで重要なことは押し手であることが、利用者に浸透した。

⑤ホットピローの試験的導入

2 年連続で夏祭にて試験的導入を図ったが、今年度も公表であり、数年かけてデータ収集と宣伝も兼ねて、灸に代るものとして導入を目指す。

⑥前年度売上の 103%を目指す

目標達成。（データ参照）

⑦一般就労への移行（病院勤務）

求人情報の提供、履歴書・職務経歴書作成、面接、身だしなみ、シフト調整など、就労移行への支援を行った。

【課題】

① 職員、利用者共にニーズアセスメント力の向上。
② 要求と必要性の理解の促進。
③ 職員、利用者のメンタルケア。
④ 職員、利用者の身体のメンテナンス。
⑤ 施術の再現性の確率を上げる。
⑥ 就労定着支援の継続。
⑦ 就労支援会計の見直し。

【実績】

① 年間患者数＝6,262 名（前年比 103%）

② 年間売上＝20,639,3000 円（前年比 103%）

③ 平均賃金

総支給月数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
139	18,289	20,232,213	145,555	1,106

④ 年度別月平均個別指名数の推移（%）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	月平均患者数
H25	74.9	60.3	42.4	20.8	9.5	15.4			7.2	14.8		427
H26	70.6	55.3	59.7	42.9	16.6	26.8	3.8		11.7	12.8		446
H27	66.1	66.7	67.3	47	24	33.4	10		8	11.3		473
H28	74.4	74.2	49.3	46.8	30.7	29.6	21.5	3.8	9.8	7.9		499
H29	72.3	73	55.3	49.4	32.8	23.3	19.9	19.6	11.3	9		507
H30	67.1	65.2	55.3	51.3	38.4	30	25.4	23.8	13.3	5.6	10.8	522

C．法人

1．事務局

【成果】

① 法人運営

・勤怠管理システムの本格始動

・ビジョン検討委員会による法人運営の検討

・社会福祉法人経営者協議会からの派遣による経営診断とその結果分析

・財政再建推進委員会による経営改善計画書の作成

② 京都市関係

・補助金

盲人ホーム事業補助金

民間社会福祉施設サービス向上補助金（施設整備借入金元本償還）

③ 助成金等関係

・特定就職困難者雇用開発助成金

・障害者雇用納付金制度報奨金

④ 機関誌「楽西(らくさい)」の発行・ホームページの更新

・機関誌「楽西」については年2回（8月と1月）、各事業所の状況や施設行事の報告、製品の紹介、利用者の様子等、編集委員で検討し発行した。

・ホームページについては、法人事務局において「社会福祉法人現況報告書」の掲示等更新をした。

【課題】

① 洛西寮利用者の獲得
② 洛西寮の建物・設備等老朽化による更新
③ コスト削減のための具体策の推進
④ 事業活動計算書（損益計算書）における増減差額の黒字化
⑤ 人材育成

【実績】

① 事業運営

事業(所)名	サービス事業	事業開始年月日	定　員
障害者支援施設　洛西寮 ・洛西寮 ・ちくりん ・らくさい作業所	施設入所支援（30名） 生活介護(20名) 就労継続支援B型（20名）	平成23年10月1日 平成23年10月1日 平成25年 4月1日	40名
点字出版施設　紫野点字社	点字出版事業	昭和57年 4月	
京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業	更生相談事業	昭和52年10月	
盲人ホーム美鈴	地域生活支援事業	昭和57年 4月	20名
らくさい治療院	就労継続支援A型	平成25年 4月1日	10名
障害者相談支援事業所 スマイルサポート	特定相談支援事業	平成26年 3月1日	

② 理事会・評議員会の開催

・理事会

月	日	主な内容	出席者数
5	30	平成29年度事業報告並びに決算案について	理事7名　監事2名
9	12	経理規程の改訂について	理事6名　監事2名
12	12	定款施行細則（案）について	理事6名　監事2名
3	13	2019年度事業計画案及び予算案について	理事7名　監事2名

・評議員会

月	日	内　　容	出席者数
6	16	平成 29 年度事業報告並びに決算案について	理事 2 名　評議員 9 名　監事 2 名

・監査会

月	日	内　　容	出席者数
5	28	平成 29 年度事業報告及び会計監査について	理事 2 名　監事 2 名

③ 法人登記事項
資産の変更登記（平成 30 年 6 月 21 日）

２．点字出版施設「紫野点字社」

【概要】

京都市からの点字印刷を中心に受注した。市民しんぶん・市会だより点字版は年間契約し、毎月安定した仕事量を確保できた。

その他の受注では、上下水道局・保健福祉局・文化市民局・環境政策局・都市計画局・交通局・選挙管理委員会などから市民しんぶん挟み込みタブロイド紙の点字版を製作した。

また、点字以外では、市民しんぶん拡大版・市政ポスターの宛名印刷、封入発送業務を年間契約で受注した。

京都市以外では、全国盲導犬施設連合会や社会福祉協議会、視覚障害者関係団体、ボランティアグループなどからの受注があった。

【成果】

① 視覚障害者やボランティアの活動を援助する点字印刷を迅速に安価に行えた。
② 視覚障害者の不足しがちな情報を提供するための出版活動を推進した。
③ らくさい作業所の作業を確保し、安定した工賃配分と就労意欲を向上させた。

【課題】

① 市民しんぶん点字版の短期間での製作日程への対応と効率化
② 市民しんぶん点字版の発行部数減少にともなう売上の減少
③ らくさい作業所の点字印刷能力と受注への調整
④ 京都市への入札における競争力のある価格の検討
⑤ 後継者の育成

【実績】

作業内容	実績（枚）	実績(%)
製版	5,050	94
塩ビ版印刷	392,397	90
パソコン製版	276	37

パソコン印刷	9,665	47
点字名刺､はがき	2,568	118
点字シール	1,470	27
発送	1,642	90
墨字印刷	26,996	82
墨字入力	8	40

３．京都府失明者巡回生活指導員派遣事業

【概要】

① 今年度の特徴

今年度の訪問相談事業は、中部地域（南丹、乙訓）および宇治市の田伏相談員、南部地域（宇治市を除く山城北、山城南）の清水相談員は昨年と変更がなく、北部担当の丹後視力障害者福祉センター堤相談員とも連携をとりながら活動ができており、対象者数 259 人・延派遣回数 947 回で、多くの新規相談者にもつながっている。人口の多い宇治と拠点のある城陽はもちろんだが、積極的に集まりを開催している八幡・木津川では新しい交流と連携を生み出し、多くの相談につながっていることは特記すべきことである。

近年の訪問相談事業の広がりは諸機関との連携によるもので、南部拠点の南部アイセンター（城陽市）というランドマークとそこで行われる新しい取り組みが、関係機関への視覚障害福祉の周知と情報発信・交流・啓発を促進した結果となっている。

また、ロービジョンネットワークという医療との連携のしくみが出来上がったことは、本年度の相談活動に大きな影響を与えた。眼疾患などで見えにくさが進行する中で、福祉サービスの存在を知らない人でも、ほとんどの方が眼科に行く。信頼する眼科の先生やスタッフから福祉サービス利用の勧めがあることで、抵抗なく福祉サービスと繋がる人も少なくない。まだ治療期にある目の不自由な方や、困りごとが生じている方に、正しい情報を届け、心理的不安を緩和し、必要なサービス利用につなげていくことは、「ひとりぼっちの視覚障害者をなくす」ことに大きな役割を果たしている。

視覚障害者は情報の障害と言われ、有用な情報についても耳に入らなければ、あるいは身近に相談を受けられる機関がなければ、生活を改善できる可能性を知らないまま在宅で生活を続けることになる。社会と視覚障害者をつなぐことが当事業の役割であり、連携が増えてきていることこそ近年の成果である。

② 南部サテライト事業の取組

本格実施から 7 年目を迎えた定点型相談訓練事業（南部サテライト事業）の集まりも地域で定着が進み、京田辺、宇治、長岡京で毎月 1 回と、各種行事などを開催し、全会場で合計 44 回開催、延べ 519 名の当事者が参加している。

相談支援・視覚リハ技術支援・情報提供支援・交流のためのサロン企画等で、専門性を活かした対応ができるだけでなく、当事者間のネットワーク作りや当事者自身が役割を持ち社会参加

できる場で生き甲斐創出の機会を提供するなど、生活の質を向上できる大変有効な障害者支援事業である。

③ 府内視覚相談会

京都府家庭支援総合センター、京都ライトハウスと当法人が共催で実施している「府内視覚相談会」に相談員として参加し、またその場では解決しないニーズに対しては後日訪問し、ケースによっては継続的に対応している。相談会では、個別相談・ロービジョン相談・視覚障害者用機器展示・盲導犬歩行体験・講演等、対象者の多様な相談ニーズを受け止めている。

視覚相談会の大きな役割は、今まで誰にも相談をしたことがないというような相談者が、初めて参加するというケースも多く、埋もれているニーズの発掘につながっている。そのためにも、開催市町村での個別通知や広報掲載など、役所との連携が最も重要となっている。

【成果】

① 補装具・日常生活用具・機器の紹介、活用方法についての支援。
② 障害年金請求申請手続きの説明など、経済的問題解決に対する情報提供と支援。
③ 視覚障害受障後の障害受容相談支援と生活訓練への橋渡し。
④ 福祉サービス、制度利用の情報提供と行政への橋渡し。
⑤ 介護保険利用者に対する制度利用の支援など、介護事業所との橋渡し。
⑥ 福祉事務所の担当者に対する最新の福祉機器などの情報提供の役割。
⑦ 一般就労・福祉的就労の環境調整とその心理的支援。
⑧ 社会参加促進と生き甲斐の創出。
⑨ 急な状況変化が生じた相談者への緊急的な環境調整。
⑩ 医療との連携による、障害福祉の情報提供と制度利用までの調整。

【課題】

① 地道な潜在的視覚障害相談ニーズの掘り起こしによる相談件数の増加と個々の相談ケースの深刻化などによる、マンパワー不足解消のためのスタッフの更なる配置。
② 視覚障害者を福祉サービス、障害者地域生活支援センター、行政、医療機関、当事者団体、情報ソース、地域等と連携し、つなぐシステムがまだまだ構築されていない現状の改善。
③ 市町村窓口に対する本事業の更なる周知と、連携・広報などの協力支援態勢の構築。
④ 京都府全域で、均等に視覚障害者に対する相談・情報支援等の福祉サービスが受けられるような体制の構築。

【実績】

① 過去 5 年間の相談件数比較（延回数、29 年度より南部の集団への支援含む、サテライトは含まない）

26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
450	450	664	969	947

② 南部地域拠点（サテライト）活動状況

実施地域	回数	参加者数　（延べ）
京田辺	12	118
長岡京	11	143
宇　治	12	155
交流	1	30
散策・企画	8	73
計	41	519

③ 府内相談会実施状況

実施日	開催地	会場	時間
5 月 28 日	八幡市	八幡市文化センター	10：30～15：30
11 月 2 日	亀岡市	亀岡市市民ホール	10：30～15：30
2 月 28 日	城陽市	南部アイセンター	10：30～15：30
3 月 18 日	向日市	向日市福祉センター	10：30～15：30

４．指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所　スマイルサポート」

【概要】

① 平成 24 年の制度改正により、障害福祉サービスを利用するすべての人に「サービス等利用計画」の作成が必要となり、これからは提出されたサービス等利用計画を参考にしながら福祉サービス等受給者証の支給決定をすることとなった。

② 入所利用者の 97%、通所利用者 43%の計画相談を受け持っている。

③ ピアカウンセリングを導入し、利用者のカウンセリングを行っている。

【成果】

① アセスメント、サービス等利用計画案・確定版、モニタリングの作成、サービス担当者会議の開催。

② カウンセリングを全員対象で毎回、順番で行っているが、希望者がある場合はその都度、優先して実施している。また年一回の報告会を実施している。

【課題】

① 相談支援専門員が施設生活支援員と兼務しているため、時間の確保が困難。

② 通所者の場合、西京区の事業所にもかかわらず、他の行政区、京都市外、京都府外の利用者の計画相談を受ける時もあるが、十分な対応をとることができない。

【実績】

① 計画相談

提供月	計画	モニタリング
4 月	3	1
5 月	3	3
6 月	2	5
7 月	3	3
8 月	0	1
9 月	1	3
10 月	2	1
11 月	2	1
12 月	2	4
1 月	1	0
2 月	0	0
3 月	2	7
合計	27 名	20 名

・カウンセリング・・・50 名（延べ人数）

５．主催行事

① 第 33 回 洛西寮まつり

【概要】

開催日時　平成 30 年 9 月 8 日（土）　11 時～15 時

会　　場　障害者支援施設 洛西寮、らくさい治療院

内　　容

① イベントホール

利用者自治会「洛友会」による合唱、後援会コンサート、ゲーム大会、大抽選会、各事業所 PR 紹介、他施設自主製品販売、洛友会ゲームコーナー、遊びコーナー、パンの販売（パンくま）、ミニバザー

② 前庭

模擬店（飲食販売）　※雨天のためその他のブースは 4F ホールへ

③ 支援室

洛西寮自主製品販売

視覚障害体験（点字名刺作り、ビーズ通し、点字クイズ、アイマスク体験、機器紹介等）

④ 会議室

マッサージ無料体験

⑤ 治療院
　鍼＆ホットピロー無料体験

【成果】

① あいにくの空模様だったが、事前の雨対策により大きな混乱もなく無事に終えることが出来た。
② 主催者として利用者の意識を高めるため、一緒になってまつりの目的を考えるところからスタートし、意見を集めた。
③ 集めた意見を参考に企画し、イベントの１つとして事業所毎の PR を実施。啓発に繋げた。
④ 全利用者の役割分担を作成した。
⑤ 利用者家族へ協力を依頼した。
⑥ 混雑を避けるため、金券売り場の場所を変更した。
⑦ 昨年度に引き続き広報活動に力を入れ、集客へと繋げた。
⑧ 昨年同様、子どもから大人まで楽しめる参加型のゲーム大会・抽選会を実施。集客へと繋げ、地域にまつりが定着していることを実感することが出来た。

【課題】

① 継続した学生ボランティアの確保
② 雨天時における 4F ホールの使い方
③ 抽選会における利用者の参加可否
④ 後援会企画の位置づけの明確化

【実績】

来場者：約 350 名
協力ボランティア：45 名（登録 23、学生他 15、利用者家族 7）
　　みやびワイズメンズクラブ　6 名
後援・助成：京都新聞社会福祉事業団、読売光と愛の事業団
後　　援：京都府視覚障害者協会、京都市社会福祉協議会
協　　力：みやびワイズメンズクラブ

② 第 33 回法人研修旅行

【概要】

開催日時：平成 30 年 11 月 15 日（木）～16 日（金）
行　　先：鳥取・三朝温泉方面
内　　容
　1 日目：藍染め体験、スウィートランド TAKARA(見学)、旅館での宴会
　2 日目：鳥取二十世紀梨記念館（なしっこ館）、鳥取砂丘、とうふちくわの里
宿 泊 先：依山楼　岩崎

【成果】

① 利用者旅行委員の主体的な旅行への関わりと、任された役割を果たす活躍が目立った。

② 旅行委員から良い影響を受け、利用者全体に主体的に体感したり参加したりする空気が広がった。
③ 早めの準備を進めたことが、利用者が積極的に参加できる企画の充実につながった。
④ 利用者ニーズをとらえ希望参加、希望体験とした。
⑤ 事前の準備・打ち合わせにより、食事制限のある方にも十分な対応をしてもらえた。
⑥ 旅行会社 4 社に見積もり・プラン作成を依頼。結果、充実した内容になった

【課題】
① 利用者ニーズの多様化への対応
② 利用者の障害や個別事情の多様化で、施設面のバリアなどの周到なリサーチの必要性
③ ボランティアの確保・養成強化
④ 予算確保
⑤ 上記課題を含めた総合的な法人研修旅行のあり方検討

【実績】
過去 5 年間の旅行参加人数

年度	行先	利用者	職員	ボランティア	合計
26	和歌山	46 人	21 人	19 人	86 人
27	愛知・三重	48 人	20 人	20 人	88 人
28	金沢	33 人	20 人	9 人	62 人
29	四国	41 人	20 人	17 人	78 人
30	鳥取	39 人	19 人	19 人	77 人

③ 西京区視覚障害者支援ボランティア養成講座

【概要】
日時：平成 30 年 5 月 19 日（土）13：00～16：00、13:00～15:00
会　　場：嵐山東小学校
内　　容：視覚障害についての講義、弱視体験、手引講習など
昨年より洛西寮から外に出て地域で視覚障害理解の講習とともにボランティア養成講座をすることで、新しいボランティアの開拓を目指した講習を開催した。参加者は多いものの、ボランティア登録には至っていない。

【成果】
① 西京区社会福祉協議会、西京視覚障害者協会との共催で、講習内容、外部講師などで協力を得た。
② 地域への視覚障害福祉啓発の役割を果たしている。
③ 西京区社会福祉協議会との共催により、広範な宣伝や補助金による運営支援を受けた。

【課題】
① 参加者数を増やす。
② ボランティア登録者を増やす。

【実績】
参加者数 約 60 名
登録者数　0 名

６．共催事業

① 第 51 回白杖安全デー（京都市内）

【概要】
日　時：平成 30 年 12 月 23 日（日）13:30～16:00
会　場：集会　京都ライトハウス４階あけぼのホール
街頭啓発　阪急「桂」駅、京福電鉄「嵐山」駅、近鉄「京都」駅
ＪＲ「京都」駅、京阪「三条」駅、地下鉄烏丸線「四条」駅
叡山電鉄「出町柳」駅
テーマ：「視覚障害者の交通安全を考える府・市民のつどい」
参加者：134 名

【成果】
① 集会では、啓発活動の報告と当日の様子を上映し、当事者からの声を届けることで白杖についての理解と「安心して歩ける福祉の街づくり」について考える場を共有することが出来た。
② 啓発活動では、シュプレヒコールや啓発のチラシを用いて、より広範な市民に対して外出時のマナーや意識の向上、視覚障害者福祉への理解を求め、視覚障害者にとっての「声かけ」の重要性を訴えることができた。

② 第 43 回あい・らぶ・ふぇあ（視覚障害者福祉啓発事業）

【概要】
開催期間：平成 31 年 2 月 14 日（木）～17 日（日）10 時～18 時
会　　場：大丸京都店 6 階イベントホール
内　　容：
・催し
レモンさんトークショー、桂福点さんトークショー、三線の演奏・琴の演奏等各種ライブ、講演、絵画コンクール表彰式　等
・体験・展示コーナー
点字体験、便利グッズ紹介、ブラインド喫茶、誘導（手引き）体験、ボランティア活動紹介、点字郵便紹介　等
・絵画コンクール

小学生を対象にした絵画を展示

・販売コーナー

関西盲導犬協会、FS トモニー、洛西寮

参 加 者：約 1,500 人（4 日間）